

家庭・学校・地域の連携で、  
子どもの外遊び環境整備をするPTA活動（学校応援団と共に）

（豊北）神田小学校 PTA

## 1 学校地域の概要

山口県西部に位置し、校区は海岸沿いに細長く伸びており、学校はその中間にあります。校区内の戸数は656世帯ですが、そのうち小学校児童の家庭数はわずか24戸で年々減少しています。

本校は、運動場を隔てて海が広がっており、磯と砂浜での学習はもちろん、休み時間も海辺で遊ぶ子どもたちの姿が見られ、海に親しむ絶好の環境にあります。また、校舎の裏や周辺は林が広がり四季折々の変化に気づきながら過ごすことができます。児童は、恵まれた自然環境の中でのびのびと活動し、素直で明るい子どもたちです。



地域の方や保護者は、登下校の安全や総合的な学習の時間への支援等、積極的に関わり協力的です。

## 2 PTA 組織図

執行部	会長	専門部	教養部		部長	副部長
	副会長		保体部		部長	副部長
	監査		施設生活部		部長	副部長
		学年部	1年	理事	副理事	
			2年	理事	副理事	
			3年	理事	副理事	
			4年	理事	副理事	
			5年	理事	副理事	
			6年	理事	副理事	

### 3 研究主題

家庭・学校・地域の連携で、  
子どもの外遊び環境整備をする P T A 活動（学校応援団と共に）

### 4 活動内容

#### (1) 学校応援団「フラワーボランティア」

6名のフラワーボランティアの方々には、苗の提供や育苗指導などをしていただいております。その様子を学校だよりから紹介します。

## 祝 山口県花いっぱい運動 知事賞

（学校便り「とうぼう」平成24年12月号より）

与作をご存じですか。カラオケの話でも有名な演歌の話でもありません。園芸培養土の与作です。与作の存在をフラワーボランティアの方に教えていただきました。与作には、バーミキュライトやピートモスを主原料にして適度な肥料分も配合されている JA で販売されている園芸培養土です。私の感覚からすれば、かなり高価な土です。来年度は、与作でサルビアの苗作りにチャレンジしようと思っています。

苗の提供だけでなく、移植や栽培指導など、フラワーボランティア無しでは神田小学校の花いっぱいとは考えられません。神田小学校の強みは、花いっぱい自然いっぱいの環境で、地域に見守られて子どもが育っているところです。

神田小学校は、今年度（24年度）の山口県花いっぱい運動で、なんと最高位の「知事賞」を受賞しました。（25年度も再度「知事賞」をいただきました。）

山口県の花いっぱい運動は、前回の山口国体（昭和38年）にガードレールの色を特産品のナツミカンにちなんで黄色にしたり、花で来県者を歓迎するために花いっぱい運動を始めたりしたと聞いています。本校も昭和38年度から花いっばいに参加しています。

審査の方に予算の少ない小さな学校での取り組みとして、①フラワーボランティアの存在②地域の協力でアルミ缶回収による予算確保③PTA 作業での腐葉土採集などを説明しました。もちろん児童や職員も、委員会活動、グリーンタイム等で汗を流していることもアピールしました。

今後の取り組みとして、できる種類については種取をして苗作りにチャレンジしたり、宿根のアガパンサスを植えたり、子どもたちが花の名前が分かるように名前に親しむように小さなプレートを立てたりしています。

花も子どもたちの心も育てる花いっぱい運動を継続していきたいと考えています。今後ともご協力ご指導をよろしくお願いいたします。



また、入学式・卒業式やお客さんがあるときなどにはフラワーアレンジメントや生け花で学校を飾り付けてもらっています。花壇の花だけでない花いっぱい運動の学校です。



(フラワーボランティアの活動)

## (2) アルミ缶回収で資金集め

アルミ缶回収をPTA施設生活部を中心に行っています。集まる量を見ても分かるとおり、神田地区の多くの方に協力をいただき、主にスキー教室のバ

ス代に使っていますが、花いっぱい資金にもなっています。

平成25年度アルミ缶リサイクル集計表

月	重量 (kg)	市奨励金 5円/kg	稲富商事 40円/kg
4	280	1,400	11,200
6	360	1,800	14,400
7	90	450	3,600
8	300	1,500	12,000
10	210	1,050	8,400
合計	1,240	6,200	49,600



(アルミ缶置き場)

### (3) PTA 作業で腐葉土採集

今年度の PTA 作業も東法園 (学校林) で、花いっぱい運動や、学校農園で使う腐葉土採集を行いました。ほとんどの保護者が参加する奉仕作業なので4立方メートルもの腐葉土が集まり、置き場にいっぱいになりました。昨年度の卒業制作壁画で6年生が腐葉土置き場を絵で飾ってくれました。ゴミ捨てるようになっていたところをフラワーボランティアの皆さんに片付け

ていただきました。絵や看板の設置で見違えるようになりました。

前年度見つけた、うれしい副産物のカブトムシの幼虫が順調に育ってきていました。今年度の7月11日に子どもたちが腐葉土を掘ってみると、カブトムシを捕まえることができました。都会の子どもは、カブトムシをお店で買いますが、神田小の子どもたちは、腐葉土置き場を掘ってカブトムシの成虫を捕まえます。



(平成24年度卒業制作壁画)



(7月 カブトムシ掘り?)

#### (4) <sup>かき</sup>花卉名板設置

これまでの「わたしの木」の取り組みで名前を知ることが自然に興味を

向けるための第一歩であるということが分かったので、花卉名板を取り付けることとしました。



(5月の花壇 キンセンカ・ビオラ・ナゲシコ)



(6月の花壇 アジサイ・サルビアの苗作り)



(7月の花壇 マリーゴールド・アガパンサス)



(8月の花壇 サルビア・ポーチュラカ)



(9月の花壇 ルドベキア・キク)



(10月の花壇 キク・サルビアの種取)

キクの苗、アガパンサスの株は地域の方にいただいたものです。今年も見事に咲きそろいました。

#### (5) 理科・生活科のための環境整備

##### ・ アサギマダラを呼ぶ、フジバカマ

「いぶきの会」会長の來見田様とフラワーボランティアの皆さんでアサギマダラを呼ぶための花壇を学校にも2か所作っていただきました。

今年も10月15日(火)に数羽のアサギマダラが、2・3年教室前に植えてあるフジバカマの蜜を吸いに来ました。これからどこまで長旅をしていくのでしょうか。児童の登校時刻には、椿坂のフラワーボランティアの皆さんで手入れをされている花壇のフジバカマにはもっとたくさんのアサギマダラを見ることができました。新聞やテレビニュースで話題の旅をする蝶が学校にも来ていることを知った子どもたちは、自然の不思議さに驚いていました。



(10月 アサギマダラ来校第1号)

##### ・ メダカ池のホテイアオイ

学校近くの用水路にいた神田産の野生のメダカを、学校の池に入れて「メダカ池」としました。野鳥に食べられる心配もあったので、ホテイアオイを池に入れることで産卵場所と野鳥からの保護の一石二鳥となりました。今年は暑い夏だったのでホテイアオイがよく咲きました。

写真は、理科の学習のために、メダカを捕まえているところです。用水路は県道を渡った先にあるので、メダカ池ならば、安心して採集をさせる

ことができます。池を仕切って植えてある餅米も見ることができます。近くの農家、小山さんの田んぼで餅米を育てていますが、毎日見ることができないのでこれも「メダカ池」に植えていつでも観察できるようにしてあります。



(「メダカ池」で理科の準備中)

#### (6) 緑のカーテン

ゴーヤのできる時期に神田小学校に来校された方には、もれなくゴーヤをプレゼントしています。豊浦営農経済支部長藤林様の指導で、大型プランターに1本植えする方法で2階にまで達する見事な緑のカーテンが育ちました。葉の色を見ながら、四隅に追肥をすることで緑が保たれました。



(夏の水やり当番のお土産はゴーヤ)

## (7) 校庭の芝生化

### ・ 芝刈り機で

神田小学校は海に隣接した運動場です。防波堤や防風林で強い海風から花壇や植樹した樹木を守っていますが、グラウンドの整地のための真砂土が毎年吹き飛ばされています。そこで、中心部以外を芝生化することでこの問題に対応していきました。まずは、芝刈り機でこまめに刈り込むことで、刈り込みに強い芝を助け、芝生化することとしました。2年程度で、計画した部分の芝生化ができました。

### ・ 境目を明確に

今年度は、土の部分と芝の部分の境目を明確にすることとしました。夏のPTA作業で、巻き尺を使い150mトラックの外側4.8mにラインを引き、その内側の芝や草を取り除きました。

### ・ 1年中の緑化

今年のチャレンジとして、冬でも芝生が緑になるようにケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、ペレニアルライグラス（商品名J・ターフⅡ）を30㎡分撒いてみました。現状ではマダラに緑が見えています。



(夏のPTA作業で、運動場整備)

## (8) グリーンタイム

児童の花いっぱい活動は、登下校班で行う毎日の飼育栽培当番と縦割り班で行う月曜日の掃除時間のグリーンタイムがあります。

### ・ 飼育栽培当番

早めに登校してから朝の会が始まるまでの時間で、登下校班単位で花の水やり、草取りをしています。

・ グリーンタイム

月曜日のグリーンタイムでは、職員と縦割り班で土作り・苗植え・除草・花の片付けなどを行っています。花いっぱいを通して、勤労体験と児童相互のピア・ツー・ピアで教え合いをしています。



(優しく水やりをしてね)



(だいじょうぶ)



(植え方は・・・です)

## (9) 少人数化に対応して

来年度神田小学校は児童数の減少で、1学級減で完全複式の3学級となり、職員も減少します。手入れをする人数が少なくなっても、敷地は700人の児童数当時の教室と校地の広さのままです。これまで、学校応援団「いぶきの会」「フラワーボランティア」の協力とPTA活動の支援で学校環境を維持してきました。

花いっぱいについては、一段の努力が必要となり、花の種類と植える場所、自動かん水機の活用について工夫しました。アガパンサス、ルドベキアなどの宿根草を植えることで少人数でも花壇の花が絶えないようにしました。夏季にたくさんの水が必要なサルビアなどの花壇に自動かん水装置を取り付けました。また、自動かん水ができないところには、ポチュラカや黄花コスモスなどの乾燥に強い花を植える花壇配置としました。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・山口県花いっぱい運動で平成24・25年と連続で「知事賞」を受賞しました。
- ・学校に花があふれ、きれいに咲きほこっている環境で育っている子どもは、自分の家でも同じようなことをしたいと思います。また、グリーンタイムで育て方を知っているので、自分たちだけでも育てる自信があります。複数の児童は、校務技士さんに「ちょうだい、ちょうだい」とおねだりをして余った花の苗や種をもらっています。子どもの手で、家庭にも花いっぱいの輪が広がりました。
- ・学校応援団「フラワーボランティア」「いぶきの会」の支援で学校の環境が整うだけでなく、児童と地域の方との触れ合いがふえました。また、学校が身近な生涯学習の場、地域貢献の場となることができました。

### (2) 課題

- ・少人数化への工夫、宿根草や乾燥に強い花卉の選択、自動かん水の工夫をより一層進め、軌道に乗せるための模索をしていきます。
- ・近隣の学校や施設との協力で、相互支援の体制づくりを行います。
- ・来年度は1学級減で完全複式となる予定です。さらに進む小規模校化への対応として、保護者や地域の方の協力無くして、すばらしい教育環境は維持できません。コミュニティ・スクール運営協議会の協力を得て、地域と学校がお互いにメリットのある関係作りをしていきたいと思ひます。